

220-pm17S

エンメイソウの品質評価の為の基盤研究

○田中 誠司¹, 伊藤 美千穂¹ (¹京大院薬)

【目的】シソ科ヤマハッカ属のヒキオコシ(*Isodon japonicus*)の地上部はエンメイソウという名で苦味健胃薬として用いられている。日本薬局方に収載されたこともあるが、第六改正では削除され、現在日本薬局方外生薬規格 2015 に収載されている。エンメイソウの主成分はエンメインを始めとするジテルペンであり、エンメインから構造変化したジテルペンも同時に含まれている[1]。また、製品間でこれらジテルペン含有量及び含有比の差が大きくあると考えられており、更には種の相違と成分含有量に関して明確な相関が見られず、品質評価が難しい生薬とされている[1]。本研究では、エンメイソウの品質評価の為の基盤研究として、異なる時期や環境で栽培されたヒキオコシについて、部位や加工法による成分含量の推移について評価を行った。

【方法】2013年から2018年に流通したヒキオコシについて葉、茎、花を試料として用いた。また、いくつかの試料に対して、粉末化処理を行ったものを用意した。これらの試料をメタノールで24時間抽出後、溶媒を除去しエキス量を測定、1 mg/mLになるようメタノールに溶解しHPLCにて成分測定を行った。

【結果及び考察】各試料について大きなピークとして表される三種の成分を含むクロマトパターンが得られ、三種の成分含有比によっていくつかのタイプに分類することができた。また、同試料の異なる部位(葉、茎、花)でも成分含有量が大きく異なっていた。本方法で得られた結果は収穫時期や収穫後の処理等を検討する上で、品質評価に大きな影響を与える条件を示唆する結果だと考え、また複数部位を基原とする生薬の今後の品質評価研究にも応用され得るものだと考える。

[1] Takuro Maruyama et al., Chem. Pharm. Bull. 55(11) 1626-1630 (2007)